



阿蘇外輪山の北西に位置する菊池溪谷。新緑は五月から六月にかけてが見ごろ。約四キロの遊歩道は、一時間ほどで回れる。

さつきまで道路から見えていた菊池川が、生い茂った木々で見えなくなつた。「ザーツ」。道の下方から水の流れる音だけが聞こえる。

遊歩道を歩くと、溪流に再会した。出迎えてくれたのはヤマアジサイの紫色の花たち。突然、目の前に緑のカーテンが現れた。カシ、ブナ、カエデ、モミジ、そして苔。どれをとっても同じ緑はない。葉の一枚一枚がピンと張りつめ、太陽に身を預けている。

「今の季節は溪谷が生きているということを一番実感できる。自分まで生き返つた気分になります」。溪谷の「生き字引」こと『溪谷を美しくする会』の田中徳行氏はこう言う。

『黎明の滝』から遊歩道を横道にそれて十五分。巨大な岩に出合う。天狗の鼻に似ていることから付いた名が『天狗岩』。昔、この一帯は山伏たちの修行場だったという。周辺には、八十八カ所霊場巡りの仏様が顔をのぞかせている。仏様の影から、チラツと天狗の赤い鼻が見えたような気がした。

阿蘇からの火砕流堆積物から成る外輪山の斜面を、川の水が浸蝕していった。やがて、百メートル以上の深さのV字谷ができあがった。それから原生林が谷を覆うまでに、いったいどれくらいの歳月を重ねたのだろうか。下流に多い常緑樹の葉は濃い緑色をしている。上流に行くほど落葉樹が多くなる。芽吹いたばかりの葉が太陽を透かし、若草色のスポットライトで流れを照らす。

流れに手を浸してみた。しばらくすると手がジンジンしてくる。水は阿蘇からの伏流水。真夏でも水温は十五度前後。溪谷が「天然クーラー」と呼ばれる所以だ。

夏なら、涼を求めて来たことがある。秋なら、もみじ狩りに来たことがある。初夏は…、こんなに美しいとは知らなかった。人気がない溪谷で、目を閉じて思いっきり深呼吸する。臉を透かして、緑が体中にしみわたっていった。

初夏が緑のカーテンを引いた